

ハロウィン超短編まつり

(挿絵つき) 2011





おばけ「どうしたんだい？ 仮装も すんでないじゃない！」

――男の子は、部屋の隅で ひざを抱えたまま。

おばけ「今日はハロウィンじゃないかっ」

男の子「だって...。」

おばけ「お菓子が欲しくないのかい？」

男の子「怖いんだもん。暗いお外...。」

おばけ「だったらボクを、つれていけばいいよ」

おばけ「ランプ代わりに、からだを光らせてあげる！」

男の子「そんな！ キミを見たら 大人は驚いちゃうよ...。」

おばけ「なに言ってるんだい？！ その為のハロウィンじゃないかっ！」

――そう言って、おばけくんは 杖の先にぶら下がると、
人形のふりをしました。

おわり

魔女はカボチャランタンの夢を見るか？



「ねえ。カボチャランタン」
「なんでげしょ」
「ハロウィンに見るとおめでたい夢って知ってる？」
「はて？聞いた事ありませんな」
「一魔女二蝠（ふく）三カボチャっていうらしいんだけど」
「それはなんでげすか？」
「一魔女はあたし。ハロウィンからあたしの夢を見るなんてみんな当然幸せ者だわ」
「はあ、で、蝠ってなんでげすか？」
ポカッ！
「わ、いきなり痛いでやんす」
「魔女の話をサラッと流すからよ！ま、いいわ」
（立ち直りが早いでやんす）
「蝠ってのはね、コウモリの事よ『コ・ウ・モ・リ』。蝙蝠って漢字に入ってるでしょ？中国語で福と発音が同じなのでおめでたいてアジアカで絶対的に人気だわ」
「ほー。そうなんでげすかー。流石魔女ですなー。知識が深い」
「ふっふーん。見直した？」
「へい」
「それはそうとして、問題はなんで三番目におめでたいのがカボチャのあんたなのかよね」
「それをあっしに訊かれても・・・」
「それにタベ見ちゃったのよ」
「へ??」
「あんたの夢」
「・・・」

絵：ぼたん 文：Leo

え、去年?知らないよ、そんなの



魔女「ふっふっふー、今年もたーっくさんお菓子かっぱらってくとするか!」

魔女式「去年って、収穫0だった覚えがあるんだけど」

魔女「.....。私はなーんにも覚えてないよーう?気のせい気のせい!!」

魔女式「...巻き込まれるこっちの身にもなってほしいよ、全く」

絵：退部沢梶由紀 文：77881



ハイクむらの ハロウィン は いつも お菓子が 一つ多い
子供が 六人 お菓子の袋は 7つある
子供が 四人 お菓子の袋は 5ついる
いつから？ むかしから
今年の子供は 三人だけど 村人たちは お菓子の袋を 4つ用意
なんのため？
むかしむかしの子供のため あしたのあしたの子供のため
お菓子くれなきゃ いたずらするぞ
いまのいまの子供達と いつかのいつかの子供が一人
夜道を一緒に歩いてきたよ

文 : depthoffield ・ 絵 : tsukikusa4513



「どうしてこのドレスじゃダメなの？」
ママはリングに上がったプロレスラーみたいに腰に手を当ててため息をついた。
「とっても似合うと思うわよ。この間の発表会のドレスみたいじゃない」
わたしはふくれっ面のまま黙ってうつむいていた。
蝉の羽根のように薄く淡い色の妖精のドレスは、確かにバレエのドレスと似ていた。
おばあちゃまとおじいちゃまはセンスがいい。とってもすてきだと思う。でも。
「・・・黒い魔女になりたいの」
思い切って言ってみた。
「黒い魔女の子なんていっぱいいるわよ？ きっと誰が誰だかわからないくらいだわ」
「でも、魔女がいいの」
「こんなに手の込んだ衣装なんて、誰も着てないわよ。ちょっと着てみたら？」
着てみたい気持ちはあるけれど、ここで袖を通したらママの思うつぼだ。
わたしは唇を噛んで首を振った。

パパの暗室から持って来た黒いシーツを広げてわたしは考える。
これを自分で縫えたらな。魔女の帽子と魔女のマント。黒いぶかぶかワンピース。
そして誰にも気付かれずに、こっそりあのこの後ろを歩けたらいいのに。
長い髪を帽子に隠して。

さあ、包帯チョコレゐトを作るぜ!!



魔女「トリック・オア・トリイイイイト!!!!!!」

包帯「お持ち帰り〜♪」

魔女式「こいつ・・・駄目だ。」

かぼちゃ「お菓子に変えてしまおうか。」

絵：退部沢梶由紀 文：みいちゃん@ソラ



娘の仮装姿を見た母が悲鳴をあげて、
「その服やめなさい!」と言い、
父親に
「お父さん見てよあれ!」
と言った。
すると父は、よく見ないで
「いいじゃないか」と言い、
娘はその姿で玄関に走り出す。
それから父は顔をあげて娘を見ると
あわてて立ち上がって
「待て!」
と言った。

文；サディア・ラボン 絵；かなりひこくま

トリック・オア・トリート！

「トリック・オア・トリート！」

『...ん～、じゃあトリックで』

「え？ホ、ホントに？」

『うん、トリック』

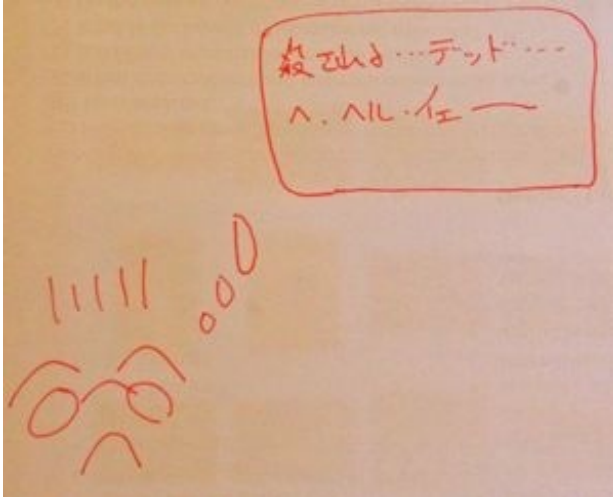
「.....ちょっと待って」

『早くしてよ』

「ちょっと待ってって、密室殺人のトリックを今考えているんだから」

『...密室殺人って、誰が殺される人なの？』

「もちろんアンタ。うーん、どうしよっかなあ」

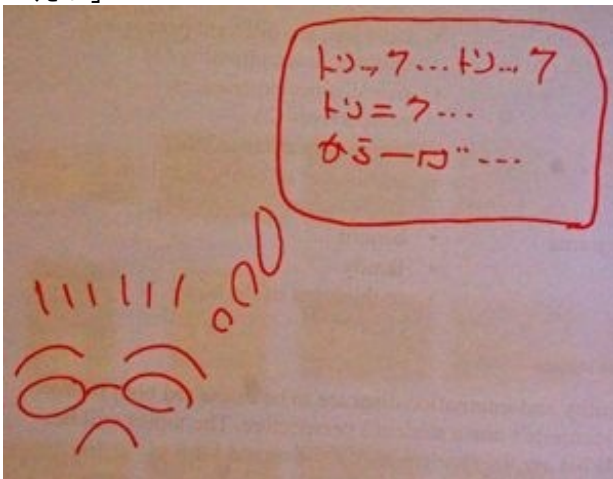


『ごめん、間違えました。やっぱトリートをお願いします』

「うん、最初っから素直にそう言えばいいんだよ。じゃあ、57億円ちょーだい♡」

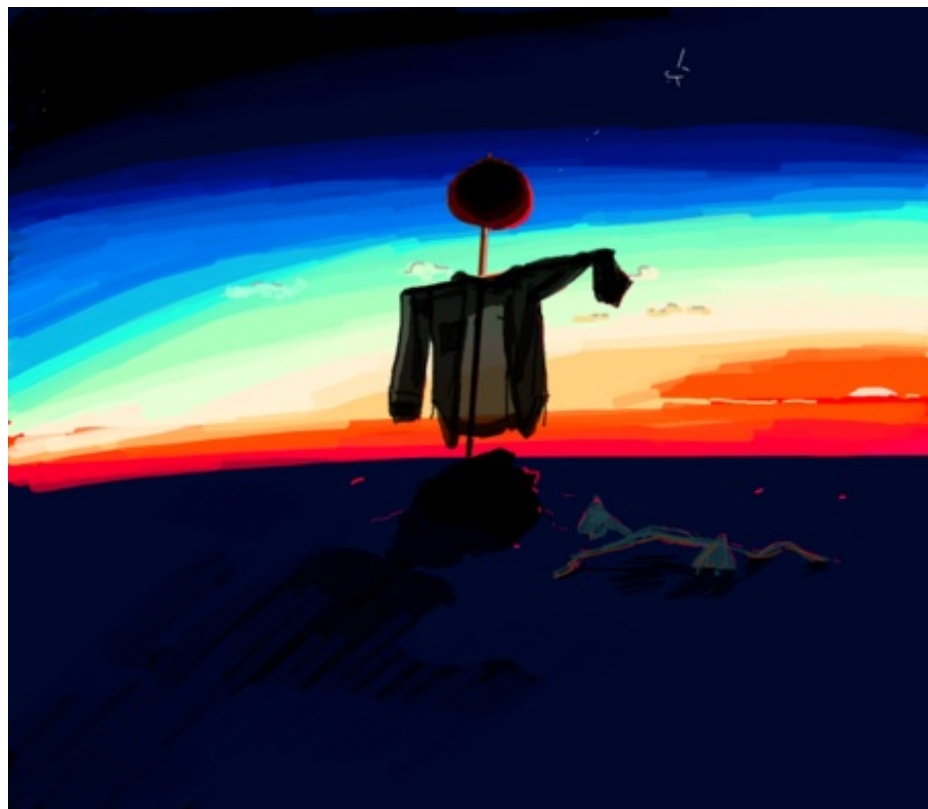
『えっ』

「えっ」



kit





かぼちゃのかかしは瞬く星を外して空の深いところを見つめていた
その方が気持ちが休まり、どこか懐かしい温もりを感じられた
かぼちゃは柔らかい土の中から芽を出し、
陽の光を浴びて成長していった日々を走馬灯のように思い返した
初めに暗い種の殻を破り、そして地上のしっとりとした空気に触れ、
眩しさに瞬きをしているうちに大きな実をつけていった
いつしかその実がかぼちゃの中心であり、思考の源であるかと思い込んでいた
だがそれは秋風のざわめきと共に間違いであったと悟った
実が空っぽになり、表面を切り抜かれ風通しがよくなったいまでも
思考は廻っているのだ
かぼちゃのかかしは流れ星が横切ろうとも、
宇宙の深みをずっとずっと見つめている

文：Plutino ・ 絵：NAPORIN

.....

タタタタタ.....





かぼちゃあるね
食はず 目を抜け 灯ともせ
その列に行こ振り向く 幼き魔女見て笑え ハロウィン

かぼちや あるね たへす めをぬけ ひともせ そのれつにゆこ
ふりむく おさなき ましよ みて わらえ はろういん

(注：いろは歌とはすべての文字を一回ずつ使って文章を作る言葉遊びの一種です)



森へ抜けると
夜道に灯は揺れ
村の子 絵本をまね 遊ぶ
うろつく 諫めて
好きなお菓子渡せや

もりへぬけると よみちにひはゆれ むらのこ えほんをまね あそぶ
うろつくいさめて すきなおかしわたせや



明日へ冬待つ今夜
おばけも眠れず吼えて鳴きぬ
幸祈り戸を開かせよ
目にろうそく見るわ

あしたへ ふゆまつ こんや おはけも ねむれす ほえてなきぬ
さちいのり とをひらかせよ めに ろうそく みるわ

文 : tonnnnon 絵 : usaurara





この本はハロウィンをテーマにした、とある競作祭の記録。
2011年10月9日から22日にかけて、はてなハイク (<http://h.hatena.ne.jp/>) で行われた。
「テキストを書く人と挿絵を描く人、ふたり1組で参加して下さい」
というルールのおかげで、作者のみなさんには戸惑いもあったみたい。
うまく連絡がとれずゴタゴタもあったけど、それも含めて楽しうございました。
参加してくださった作家のみなさんへ改めて、ありがとうございます。

今回の優勝作は「☆かぼちゃのいろは歌☆」
「いろは歌」というのは「47文字のひらがなを全部1回ずつ使った歌」だそうです。
すごい。
tonnnonさんが歌をつくり、usauraraさんが絵を描き、
そして彼らの頭上に今年のかぼちゃ大王の栄冠は輝きました。
おめでとう。

かなりひこぐま

ハロウィン超短編まつり（挿絵つき） 2011

<http://p.booklog.jp/book/37226>

著者 : kanarihikokuma

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/kanarihikokuma/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/37226>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/37226>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.